

②③ 栃木県日光市芹沢地区^{せりざわ}で同時多発的に発生した 土石流災害に伴う砂防堰堤群工事

受賞機関 国土交通省 関東地方整備局
日光砂防事務所

全建賞審査委員会の評価ポイント

平成27年9月の「関東・東北豪雨」による土石流災害の再度災害防止対策として、砂防堰堤を整備した災害関連緊急砂防事業。狭隘な作業スペースかつ生活用道路と工用道路を共用するという工事制約がある中で、待避所の設置、施工ヤード見直し等により、砂防堰堤6基をわずか1年の短期間で完成させたことを評価。

1. はじめに

栃木県日光市芹沢地区では、「平成27年9月関東・東北豪雨」による記録的な大雨により、9月10日未明に土石流が7溪流8カ所で発生し、家屋6戸が全半壊、住民2名が負傷、また、市道が流失し、分断された住民25名が一時孤立するなど、甚大な被害を受けた。

2. 事業の概要

日光砂防事務所では、住民の一日も早い、安心・安全な生活を取り戻すため、被災直後から応急対策に着手するとともに、再度災害を防止するため、災害関連緊急砂防事業等により恒久対策として砂防堰堤6基を緊急的に施工した。

事業実施箇所は、狭隘で土石流により不安定土砂が堆積し、法面は崩落により山肌が露出しており、作業員及び近隣住民に二次災害の恐れがあったことから、再度土石流が発生しても、民家側に流れないように、民家側に大型土のうを設置するとともに、施工箇所上流側に倒木を利用した土留や大型土のうを設置し、施工期間中の安全を確保した。



被災直後の芹沢地区滝向沢（平成27年9月）

また、山間の静かな集落において、大型車両がすれ違えない唯一の生活道路である市道を工事車両がピーク時には生コン車約70台/日が入り出すことから、大型車両がすれ違えるよう、地区内に誘導員や待避所を設置するとともに「地元車両優先」、「工事車両20km/h以下走行」、「日曜日や早朝・残業作業は行わない」を徹底し、住民生活に影響がでないよう、配慮を行った。

さらに、施工上・工程上の課題が発生した場合は、毎週の工程会議にて施工手順、施工ヤード見直しにより、工程への影響が出ないように検討を繰り返すとともに、鋼製スリット据付け時には、座標や高さを確認しながら、据付けを行い、品質や精度向上に努めた。

3. 事業の成果

以上の通り、地元の皆様のご理解・ご協力と地域に精通した受注者の日々の努力により、「平成27年9月関東・東北豪雨」で被災してから約1年半、工事着手から約1年の短期間において再度災害を防止し、恒久対策となる砂防堰堤6基を完成することができ、当事業の目的である住民の安心・安全な生活を取り戻すことができた。幸い、工事期間中も再度、土石流が発生することもなく無事故・無災害で完成を迎えることができた。



完成した滝向沢砂防堰堤（平成29年1月完成）

4. おわりに

引き続き、同地区では、事業が進められるが、今回のような地道な努力の積み重ねによって、住民生活に影響が出ないように配慮しつつ、安全・確実かつ迅速に事業を進め、地域のより一層の安心・安全確保に貢献していきたい。